

## 1. 業績(A)

### (1) 著作

- \* 『日本の近代3 明治国家の完成』(中央公論新社、2001年5月、490頁)  
本来は本学への移籍寸前の2年前に刊行されていた筈のもの。『日本の近代』シリーズ全体の編集委員も務めていたため、公約違反の重圧この上なく、公刊にこぎ着けてまことにほっとした。私の専攻からいうと「日本政治史」のフィールドの作品であるが、「政治社会学、政治文化論的視座」の積極的導入も試みている。本書に関連するものとして、下記3点参照。
- \* 「対談 明治人は我らの同時代人<対談相手 三浦雅士>」『日本の近代3 付録16』(中央公論新社、2001年5月、11頁)
- \* 「タテの『鎖国』、ヨコの『開国』<対談相手 井原甲二>」『MOKU』8月号、16頁
- \* 「編集委員の御厨貴氏に聞く」『読売新聞』(2001年7月30日付夕刊)  
また、本書の書評が、五百旗頭真『毎日新聞』、山本博文『読売新聞』、佐藤卓己『共同通信<配信>』と3点公にされた。

### (2) 学術的論文

- 「自民党の研究<上> 第一章政策・基本理念 全てを飲みこむ極まった"ねじれ"」『世界』7月号、p.69-74
  - 「近代史の『文体』と『気分』」『文学界』7月号、p.160-170
  - 「国家をめぐる『古色蒼然』とした論争」『中央公論』8月号、p.88-93
  - 「カリスマとしての明治天皇」『大航海』41号<1月号>、p.104-111
  - 「『鈴木宗男』を浮上させた保守政治の衰退」『中央公論』4月号、p.73-77
- 都立大時代にも単発ではあったが、今年度は、本学に移籍して初めて所謂『総合雑誌』のジャンルで問題提起的な論文を連続して執筆し、公表した。やは時事的な問題をいかに「日本政治史」のフィールドにのせて歴史的コンテクストを浮かび上がらせて解釈するかをモチベーションとした論文。は歴史の政治化を具体的論点に即して考察。本学の公共政策プログラム 期生とのディスカッションが役に立った。とは、新著『明治国家の完成』のコロラリーであるとともに、新しいテーマ設定を意識している。なお、私が『世界』や『文学界』に書いたということで話題になったが、編集者との話でテーマさえ納得できれば、媒体は何であれ構わないと思っている。

### (3) 学術的報告

- 読売新聞憲法問題研究会主催憲法シンポジウム「政治の復権をめざして」(2001年4月21日、プレスセンターホール)のコーディネーターを務める。  
パネリストは、大石真、クライン孝子、井沢元彦、坂本多加雄。『読売新聞』(2001年5月3日付)に詳報。
- 復旦大学日本研究センター(上海)主催第11回国際シンポジウム「経済のグローバル化と21世紀日本の対応」(2001年4月30日-5月2日、復旦大学日本研究センター)で、報告「東は東、西は西-近代と新世紀」をし、「グローバル化と日本の農業」のセッションでコメンテーター。『復旦大学日本研究センター報告』に詳報。この1月に急逝した橋本寿朗氏の誘いによるもの。

C.O.E. オーラル・政策研究プロジェクト主催の研究集会「学としてのオーラルヒストリー - 民俗学から政策研究まで - 」にて、第1部公開インタビュー「大人の語りについて」第2部パネルディスカッション「オーラルヒストリー - その方法論的課題」に、いずれもパネリストとして参加。最後に総括報告を行った(2001年9月8日)。

この研究集会の速記録は、本プロジェクト編『学としてのオーラルヒストリー - 民俗学から政策研究まで - 』(2002年3月)にまとめられた。

日本政治学会2001年度研究会(立教大学法学部、2001年10月13日)の共通論題「歴史としての20世紀」にて、「天皇と統治:20世紀の総決算」と題して報告し、ディスカッション。

政策研究大学院大学第1回GRIPS政策研究会「政策研究の課題と方法」において、「政策研究のリアリズム(1)」と題して報告し、質疑応答(2001年12月8日)。毎日新聞創刊130周年記念シンポジウム「都市の防災基盤を考える」(毎日ホール、2001年12月12日)のパネリストとして参加。他に、下河辺淳、溝上恵、宮崎緑、鈴木克宗の各氏。『毎日新聞』(2001年12月13日付)で速報。同紙(2002年1月17日付)に詳報が掲載された。

(4) C.O.E.オーラル・政策研究プロジェクト研究リーダー、政策情報プロジェクト研究 主任

- \* オーラルヒストリー・プロジェクトが大型化して2年目。石原直紀事務局長の着任を得て、サポーター・スタッフが充実し、プロジェクトはフル回転している。
- \* オーラルの実施状況は別記活動報告参照。但し、インタビュアーとして参加したオーラルは下記の通り。  
股野景親、下河辺淳(ビデオ制作)、矢口洪一、塩飽二郎、宮澤喜一、工藤敦夫、竹内道雄、堤清二、前田光嘉、河野正三、竹内藤男、水上萬里夫、画商F
- \* 研究集会『学としてのオーラルヒストリー - 民俗学から政策研究まで - 』を、プレスセンターホールにて2001年9月8日に開催。同題の速記録をもとにした報告書を去る3月に刊行。
- \* ニュースレターは『POPEニュース』として2001年7月25日、12月25日の各2回、『オーラルヒストリー』と改題して2002年3月20日に刊行。
- \* 研究報告書として、オーラルの成果物3点刊行。  
『竹内良夫オーラルヒストリー』(2001年9月)  
『「阪神・淡路震災復興委員会」委員長・下河辺淳オーラルヒストリー』(上・下)(2002年3月)  
これについては、『読売新聞<大阪版>』(2002年1月15日付夕刊)に紹介記事が掲載される。  
『「捕鯨問題」と日本外交 - 保護と利用をめぐる国際対立の構造 - 』(2002年3月)
- \* オーラルヒストリー方法論研究会(武田徹主宰)の報告書の刊行開始。  
1. 佐藤健二(東大助教授)『コミュニケーションとしての調査』(2002年3月)  
なお、研究会そのものは、この2ヶ年で10回行った。
- \* 佐道明広助教授、武田知己特別研究員と共に、本プロジェクトによる支援の形をとっている次の二つのオーラルヒストリーについて記しておく。

<1>日本道路公団総合研修所経営研修調査室「オーラルヒストリー研究委員会」(1998.11~2000.12)『高速道路事業及び有料道路制度に関わる』Hオーラルヒストリー』として計5冊の報告書が2000年度末にまとめられた。

今年度は、引き続き第2次研究委員会が立ち上がり、現在オーラル実施中。  
<2>河川協会「河川行政オーラルヒストリー委員会」(2001.6～)は、現在オーラル実施中。

\* 『政治とは何か 竹下登回顧録』の韓国語訳が、2001年6月、講談社インターナショナルを通じて公開された。

#### (5) その他

『東京一極集中をもたらす意識への移転に影響に関する調査報告書』<ヒアリング調査>国土交通省国土計画局、2001年3月、P.53-64、P.85-91。

『東京都立大学法政研究室所蔵・電力コレクション目録』<目録によせて-「電力と政治」>東京都立大学法学部、2001年3月

## 2. 業績(B)

### (1) 書評関連

「味読・愛読・文学界図書室」『文学界』に隔月下旬書評連載。今年度で3年目。

- \* 窪島誠一郎『無言館ノオト』(10月号)
- \* 佐伯彰一『回想』(11月号)
- \* 竹内 洋『大学という病』(1月3月号)
- \* 高橋 正『西園寺公望と明治の文人たち』(5月号)

その他の『雑誌』に載せた書評、本にまつわるエッセイ、解説、対談

- \* 「アーネスト・サトウとその時代<対談相手 鹿島茂>」『一冊の本』朝日新聞社、10月号
- \* 「発信と受信を繰り返した明治天皇」『波』新潮社、11月号
- \* 「『楠田實日記』のここが面白い」『中央公論』12月号
- \* 「笠原英彦『歴代天皇総覧』」『中央公論』2月号
- \* 「新しい日本をつくる国民会議編『政治の構造改革』」『論座』5月号

その他の『新聞』に載せた書評、本にまつわるエッセイ、解説

- \* 「今を読み解く 『真珠湾』から60年」『日本経済新聞』(8月12日付)
- \* 毎日出版文化賞選評・原武史『大正天皇』『毎日新聞』(11月3日付)
- \* 「運命の十年 二つの日記から」上・下『産経新聞』(11月13日、14日付)
- \* 「今を読み解く 近代史のタブーを問い直す」『日本経済新聞』(12月23日付)
- \* アンドルー・ゴードン編『歴史としての戦後日本』『日本経済新聞』(2月24日付)

書評、本にまつわるエッセイ、解説を「政治史」「近代史」専攻のせいもあり依頼されることが多い。都立大時代のものは『本に映る時代』(読売新聞社、1997年)としてまとまっている。昨今は、アカデミズムとジャーナリズムとのボーダーが曖昧になっているので、その両方に、一応のガイドラインを示すことが、とりわけ研究者に求められている。今年度は、本学に移籍して以来始まった『文学界』への定期書評の他、話題になる本が多かったため、各紙誌への出稿が増えた。

### (2) テーマ対談

- \* 「政治四季報 自民党は役割を終えた<対談相手 松原隆一郎>」『論座』6月号、p.66-81。この対談は、韓国語の季刊雑誌「日本フォーラム」49号(2001年6月)に翻訳転載された。
- \* 「政治四季報 小泉自民党の分岐点<対談相手 松原隆一郎>」『論座』8月号、p.104-119。

- \* 「人間の政治の復権〈対談相手 関川夏央〉」『大航海』40号〈10月号〉、p.72-87。
- \* 「戦後日本の政治・経済・社会システムの統括と展望〈対談相手 佐伯啓思〉」『生活起点』セゾン総合研究所、12月号、p.4-18。

最近、特定のテーマについてかなり長尺の対談が増えている。題材は様々であるが、松原隆一郎、関川夏央、佐伯啓思、それに1の(1)で挙げた三浦雅士との対談は、各人各様の専攻であるため、当方も「政治学」「政策研究」「政治史」「近代史」といった専攻分野を駆使して、話題のさらなる展開に努めた。長尺の対談は、二人による"業績"とみなしてよからう。

### 3. 教育

- (1) 公共政策プログラム・「政策研究の基礎」春大学期木曜・「政策事例研究の基礎」秋大学期木曜（いずれも3:00-4:30PM、いつも30分～1時間延長）  
ディレクターの任を解かれ、自由な身となったので、期生に対しては文字通り「政策研究の基礎」となる「読み・書き・話す」訓練と「選び・記し・説く」訓練とを1年間で30回近く徹底して行った。ビデオによる補充授業の他、夏合宿、冬合宿における各々10時間に及ぶディスカッションのラリーなど、記憶に残る事柄が多い。  
期生は、期生に優るとも劣らず優秀であった。その成果は『Mini Essay 2001』及び『Mini Case 2001』に結実している。
- (2) 公共政策プログラム・「特定課題研究」専攻指導  
期生の松永康則、檜垣重臣、林英郎、黒須卓、柳沢信高、中内康夫の6名に対して、山根裕子、竹中治堅の各先生との連携の下に、重点的指導を行った。
- (3) 後期博士課程進学予定者テュートリアル指導  
期生の佐脇紀代志、柏谷泰隆の2名に対して、飯尾順、加藤淳子（客員）の両先生と連絡をとりつつ、論文作成へ向けて積極的に指導を行った。
- (4) インター・ユニバーシティ・セミナー・御厨塾「日本政治史プロフェッショナルセミナー」  
本学に移籍して以来試みているアカデミック・フォーラム形成の第一弾。月2回、夕方6時から9時、しかる後二次会に移り11時までセミナー形式で「日本政治史」のプロを目指す人のための勉強会も今年で3年目。本学のC.O.E.特別研究員武田知己、リサーチアシスタント村上浩昭、元リサーチアシスタント村井哲也を中心に、五百旗頭薫（都立大助教授） 苅部直（東大助教授）を始め、計10名の意欲あふれる人材が集結している。レギュラーゼミでは「佐藤日記」の論読に加えて、古典的著作の書評会も始まった。合宿も定例化。先行きが楽しみというもの。『This is 御厨塾～創刊号～』が3月末に刊行された。  
なお、今年度は同じくインター・ユニバーシティの精神に基づき、アカデミック・フォーラム形成の第二弾として、若手・中堅研究者への博士論文クラスの長尺の論文の指導を積極的に試みた。牧原出、五百旗頭薫、竹中治堅、佐道明広らへの指導を通じて、改めて教えることは、教えられることであるとの思いを強くした。

#### 4. 管理・運営への関与

政策研究大学大学院の管理・運営への関与

- \* 常任委員会委員
- \* 常任委員会人事評価調査会委員
- \* キャンパス検討委員会委員
- \* ランチタイムトーク幹事

#### 5. 社会的貢献（A）

##### （1）他大学・研究所等

- \* 国際日本文化研究センター客員教授（危機管理と予防外交）
- \* 国立公文書館「専門職員養成課程」講師（2001年11月29日、「オーラルヒストリー」）  
上記は、いずれも今年で3年目。
- \* 人事院係長研修講師（2001年7月13日、「説明責任を考える」）
- \* 人事院「国家公務員採用 種試験」専門委員

##### （2）財団法人等

- \* (財)社会経済生産性本部経営アカデミー コーディネーター
- \* (財)サントリー文化財団サントリー学芸賞「思想・歴史部門」選考委員
- \* 毎日新聞社 毎日出版文化賞選考委員
- \* 毎日新聞社 社史（130年史）編集委員会アドバイザー
- \* (財)東京市政調査会 評議員
- \* 博報堂岡崎研究所「近代外交史研究会」座長

##### （3）学会等

- \* 日本政治学会 IPSA 準備委員会委員
- \* 日本国際政治学会評議員

##### （4）審議会、第三者委員会等

東京都江戸東京博物館野外収蔵委員会委員（東京都生活文化局）

「栄典制度のあり方を考える」懇談会委員（内閣府）（～2001年10月）

栄典に関する有識者（内閣府）

「追悼・平和祈念のための記念碑等施設のあり方を考える」懇談会委員（内閣官房）

東京環状道路有識者委員会委員長（国土交通省・東京都）

防衛政策懇談会委員（防衛庁広報課）

本学に移籍して以来、国のあり方を考える懇談会への参加を求められることが多くなり、また、今年度は、我が国初のPI（パブリック・インボルブメント）のための第三者委員会への参加を求められた。いずれも、私の「政治史」のフィールドにおける研究テーマの一環をなす。ただ、政策の実践の場への具体的かわりをどうするか、考えさせられることが多い。私としては、これらの経験を「政策研究」のフィールドに如何に生かしていくべきかに注意を払いつつ、任を

果たして行きたい。

に関連して、『Yomiuri Weekly』(2001年4月8日号)に、委員としてのコメントが「栄典の研究」(下)の中に掲載された。

に関連して、『朝日新聞』(2001年12月20日付)にメンバー個人の意向についての記事「平和祈念施設懇メンバーに聞く」が掲載された。

に関連して、下記のメディアに委員長としての発言が取り上げられた。

- ・「住民と行政の話し合いに新機軸。PIプロセスの透明性等を確保」『毎日新聞』(2001年12月27日付)
- ・「計画凍結の外環道『35年の重さ実感』」<コメント>『朝日新聞』(2002年1月26日付)

## 6. 社会的貢献(B)

### (1) 新聞メディア

毎日新聞「雑誌を読む」担当<橋爪大三郎、斎藤環両氏と分担>

<メイン批評>

- \* 「小泉新内閣の意義」(5月23日付夕刊)
- \* 「揺らぐ歴史と記憶」(8月29日付夕刊)
- \* 「9・11テロの盲点」(11月28日付夕刊)
- \* 「融解する官僚組織」(2月27日付夕刊)

<サブ批評>

- \* 「"今"をどう捉えるか」(4月25日付夕刊)
- \* 「千波万波を呼ぶ外相の行動」(6月27日付夕刊)
- \* 「竹中平蔵大臣は不適格か」(7月25日付夕刊)
- \* 「迫られる情報収集と分析」(9月26日付夕刊)
- \* 「犯行声明なき"犯罪"の怪」(10月24日付夕刊)
- \* 「変転きわまりなき人物評」(12月26日付夕刊)
- \* 「バブルと高度成長の果て」(1月30日付夕刊)
- \* 「是正されぬ同質性の弊害」(3月27日付夕刊)

<座談会>

- \* 「論壇この1年」(12月17日付夕刊)

各紙

- ・「検証・石原都政2年の航跡」上<コメント>『朝日新聞』(4月10日付)
- ・「風の行方 2001 都議選」 <コメント>『読売新聞』(4月11日付)
- ・「小泉総裁選出 自民党員の意識変わった？」<コメント>『読売新聞』(4月25日付)
- ・「スキャナー 初の党首討論」<コメント>『読売新聞』(6月7日付)
- ・「都議選 識者に聞く」<コメント>『産経新聞』(6月25日付)
- ・「都議選 識者に聞く」<コメント>『毎日新聞』(6月25日付)
- ・「争点討論 ディスカス 参院選何が問われるか」<座談会 諸井虔、加藤タキ両氏>『読売新聞』(7月5日付)
- ・「素朴な大疑問 郵政3事業民営化はどこへ？」<コメント>『毎日新聞』(7月19日付夕刊)

- ・「改革への期待票 前途多難」<コメント> 『共同通信』(7月29日配信)
- ・「女性と政治 存在感薄かった参院選」<インタビュー> 『日本経済新聞』(8月3日付夕刊)
- ・「歴史の語り口」上<コメント> 『読売新聞』(8月14日付夕刊)
- ・「積極的行政促す HIV 訴訟判決」<コメント> 『朝日新聞』(9月28日付夕刊)
- ・「近代天皇 人間性に迫る」<コメント> 『日本経済新聞』(10月27日付)
- ・「スキャナー 経済財政諮問会議」<コメント> 『読売新聞』(11月3日付)
- ・「どう見る小泉改革(上) 与党の事前審査見直し」<インタビュー> 『朝日新聞』(12月12日付)
- ・「天皇陛下発言 識者の見方」<コメント> 『朝日新聞』(12月23日付)
- ・「追跡 小泉政権8ヶ月 私の採点」<コメント> 『日本経済新聞』(12月27日付)
- ・「政ことば考 番外編2001」<コメント> 『読売新聞』(12月31日付)
- ・「田中外相更迭 識者の声」<コメント> 『読売新聞』(1月30日付)
- ・「外相更迭 街の声」<コメント> 『毎日新聞』(1月30日付)
- ・「スキャナー 小泉改革 重大転機」<コメント> 『読売新聞』(2月2日付)
- ・「明石駅前再開発"撤退"」<コメント> 『読売新聞(大阪版)』(3月8日付)
- ・「加藤元幹事長離党」<コメント> 『読売新聞』(3月19日付)
- ・「大正天皇実録公開」<コメント> 『朝日新聞』(3月29日付夕刊)

今年度は、本学に移籍して以来飛躍的に増えたマスコミとの接触が、一つの段階に達した。政治的事件が多かったせいもあるが、『毎日新聞』の時評と各紙へのコメントを通じて「政策研究」「政治学」の立場から臨床研究への展開を心掛けている。最近、新聞記者もこちらの言うことをきちんと聞いて紙面に反映するようになった。従って、逆にこちらが一回一回試されることにもなる。緊張の一瞬である。

## (2) 雑誌メディア

- \* 「岡崎久彦の<外交人物伝>最終回『外交を担った人物たち』」<対談> 『MOKU』2001年4月号)
- \* 「日本の知を求めて 吉野作造記念館」『中央公論』2001年7月号、グラビア5頁
- \* 「ヘレン・ミアーズを知っていますか<対談相手 田原総一郎>」『諸君!』7月号
- \* 「近現代史を知る500の良書」<アンケート> 『諸君!』2001年7月号
- \* 「『小泉改革』の戦略と戦術を読む<対談相手 山口二郎>」『潮』2001年8月号。

この対談の後半部が、『論争・道路特定財源』(中公新書ラクレ、2001年10月)に再録された。

- \* 「サンフランシスコ講和条約・歴史的意味」<インタビュー> 『S A P I O』2001年10月10日号
- \* 田原総一郎「同時代政治史・田中角栄以後」<インタビュー> 『諸君!』2001年11月号、2002年1月号
- \* 「陸奥宗光と小村寿太郎<対談相手 江坂彰>」『歴史街道』5月号

## (3) 映像メディア

東京MXテレビ『都議会中継』『都議会の焦点』解説者

6月 第2定例会

8月 臨時会

9-10月 第3定例会

12月 第4定例会

2-3月 第1定例会

都議会をウォッチングして、生番組の中で腰だめで解説を行う作業を始めた。

「政策研究」の立場をこの仕事に反映させる時、石原知事の動向や小泉首相との関連、国政と緊張関係に立つ都政の姿などが浮き彫りにされて、それ自体スリリングな体験であると同時に、私自身の研究に役立っている。

NHKテレビ『その時歴史が動いた』（2001年10月10日放送）

「不平等条約を改正せよ 外務大臣・陸奥宗光の決断」〈ゲスト〉

#### （４）その他

「母の記憶から消えた父」『文芸春秋・4月臨時増刊・家族の絆』